シリーズ② 学力向上への道

大山中学校区の取り組みについて

大山中学校区で、現在進めている小・中学校の連携を図るための取り組みについて紹介します。

授業研究の推進

言語活動の充実を図る指導の工夫を重点の一つとして、取り組んでいます。そのために、説明・発表の機会の充実と学習を振り返る活動を大切にした授業の研究を進めています。

例えば、大山小では、考え方や理由を筋道立てて説明する力を育てるため、「自分の立場を添えて挙手する」「聞き手に対し、立ち位置・話す方向を意識して発表する」「発表者に対し、適切な反応を大切にした聞き方をする」を重点指導として取り組んでいます。これらについて、校区の研修会などを通じて情報共有し、各校で共通した取り組みを進めています。

聞き手を意識して、発表する力が育ち、学び合いが活発なものになっています。また、学習を振り返る活動においては、授業のまとめ、感想を毎時間設定し、学習への達成感・成就感を育てる取り組みを続けています。

授業改善の取り組み

授業研究の推進を受けて、生徒の「分からない」が「分かる」喜びに変わるよう、生徒が主体となって学ぶ授業づくりに取り組んでいます。

その一環として、校区内の研修会で西留安雄氏（高知県教育委員会スーパーバイザー）を、大山中校内研究会で馬場宏明氏（元東大阪市中学校長）を講師にお招きして、生徒主体の授業づくりについて研修会を行いました。

研修を生かして大山中では、授業中、個人で考えた後、グループで分からないことを聞き合い、深めていく学び合いのスタイルを取り入れています。生徒もこの学習スタイルに慣れ、全体の場では言えないことや聞けないこともグループの中では言えるようになってきました。生徒が発する疑問に丁寧に応える友だちの姿が、グループ学習の中で見られます。学び合える関係の中で、自分から学び考えることを習慣づけ、思考力を伸ばすようにしています。

家庭学習の充実

家庭学習の質を高めるノート指導や家庭学習の習慣化にも取り組んでいます。

例えば、大山西小では、町版の「家庭学習の手引き」を参考にしながら、主体的な家庭学習の取り組みに力を入れています。

児童自身が内容を考え、家庭学習を行う「自主学習ノート」のコンクールを毎学期1回開催し、工夫された学習ノートの中から、学年ごとにグランプリ・準グランプリ・優秀賞を選んでいます。このコンクールを励みに、主体的に家庭学習に取り組む児童も増えています。

さらに、PTA厚生部主催の「家庭でチャレンジ」を各学期1週間行っています。これは、テレビ・ゲームの利用時間や起床と就寝時刻を家族で話し合い、よりよい生活習慣づくりを目指すもので、家庭学習の時間の確保にもつながっています。

学校ごとに方法は異なりますが、他の児童・生徒への参考となるよう優れたノートを廊下に展示する取り組みや家庭学習の重点期間を設ける取り組みを大山中学校区で共通して行いながら、家庭学習の充実に努めています。

このように、大山小と大山西小との横の連携や、保育所も含めた小・中学校の縦の連携を大切にして、心身ともに子どもの育ちを支えていく学習環境づくりに取り組んでいます。